

IMMUNO AG1 (インフルエンザ迅速診断システム)

当クリニックでは、富士フィルムの富士ドライケム IMMUNO AG1 (高感度インフルエンザ迅速診断システム)を導入しました。

新開発の増幅技術により、イムノクロマト法の検出感度を高め、発生初期(発熱から6時間以内)のウイルス量が少ない検体に対しても陽性判定が可能です。

インフルエンザ診断薬
富士ドライケム IMMUNO AG カートリッジFluAB



デジタメトリ分析装置
富士ドライケム IMMUNO AG1



①付属の綿棒で検体を採取し、抽出液に



②カートリッジに滴下



③カートリッジを本装置に挿入
⇒インフルエンザの判定

従来のインフルエンザの検査の問題点

- ・発熱してから1日以上経過しないと検査で陽性にならない！
- ・しかし、発症後2日以内に治療を開始しないといけない！

インフルエンザウィルスの増殖速度は非常に速く、1個のウィルスが24時間後には100万個になるといわれています。そのため、ノイラミニダーゼ阻害薬などの抗インフルエンザウィルス薬はできるだけ早期(発症後48時間以内)に服用を開

始することが重要です。一方で、従来のインフルエンザの確定診断を迅速診断キットで行う場合、発症 6 時間以内は感度が 10%前後と低く、高熱がみられてから 1 日以上経過していないと陽性にならないこともよく経験します。できるだけ早期に的確に診断し、服用を開始することが重要と考えます。

※つまり発熱後 24 時間から 48 時間の間に診断し、治療を開始しないとイケない！

・発熱して間もない場合は、翌日再度検査しないとイケない！

あのイヤな鼻グリグリのインフルエンザ検査は 1 回で済ませたいですね。しかし発熱して間もない場合には、検体中のウィルス量が少なく、通常の迅速診断キットで陽性にならず、高熱のまま経過を見て翌日再検査しなければならないことがよくありました。

当院の高感度インフルエンザ迅速診断システム【富士ドライケ

ム IMMUNO AG1】の利点

高感度検出技術により発症早期(発熱から6時間以内)でもインフルエンザ診断が可能になりました！

標識に用いる金コロイド粒子を、写真現象の銀増幅原理を応用する事により約 100 倍に増幅し、検出感度を向上しました。

そのため、

- ① 発症して間もないインフルエンザ診断が可能になりました。
- ② 発症後 2-3 時間でも陽性と判定できます。
- ③ 発症してすぐだからと検査をせずに経過を見たり、日を改めて 2 度、3 度と検査を繰り返すリスクがかなり減りました。
- ④ また、鼻をぐりぐりせずに、鼻をかんで得られた鼻汁を検体として検査できます。

インフルエンザかなと思ったら、是非、早めに受診するようにしてください。